

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月31日

事業所名 まいるーむ放課後こども教室貝塚校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		荷物や絵本、玩具などの置き場所を活動スペースと分離し、スペースの確保を行っている	より活動がしやすく、安全面に配慮した空間作りのために危険要素の確認を行う
	2	職員の配置数は適切である		○		急病などによる欠勤があった際に対応ができるように人員の補充を検討
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○		階段や段差が多くある為バリアフリー化は進められていない為、適切な配慮、スロープ化などの配慮が必要
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		各スタッフが環境整備に尽力している	机の配置など子どもたちにより適した環境づくりを試行していく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		チーフからの発言だけでなく、スタッフの意見を聞き取り、必要なものや効果が見込まれそうなものは積極的に取り入れ、振り返りを行っている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表だけでなく、送迎時やモニタリングなど生の声を大切にしている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			これまでの支援方法や支援内容、慣れたものにこだわらず、新しい情報や、知識の吸収を積極的に行う
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者の意見と本人の意思、施設側の意見を踏まえ、偏りの内容計画をしている	これまで以上に本人の意志や今後に向けて必要になる要素を考慮した計画立案が必要
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		SM社会能力検査の実施	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			適切な内容かどうかを随時見直しを行い、ブラッシュアップを計画的、段階的に行う
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			計画から少し外れた内容の支援を実施しても、そこからつなげる道筋やどう組み込んでいけるかをチーム内で把握する
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当を決めてはいるが、他のスタッフからの意見を積極的に取り入れ、現状と将来的に必要なとされる項目に沿った内容を組んでいる	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			土台や基礎は丁寧に活動に取り入れつつ、新しい取り組みや刺激になるものは
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別の取り組みを行う際に集団での関りが必要な活動の作成を意識している	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日の利用者の注意すべき点や、気になる最近の様子などを共有している	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日の利用者の注意すべき点や、気になる最近の様子などを共有し、次回の利用や進学鍼灸に向けての懸念点等を話し合っている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		スタッフが個々に感じていることを利用児別に一カ所に記載し、翌利用の際に役立てられるようにしている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		日頃の様子なども踏まえた計画の作成をしている	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○	施設代表が参加しているが、より意義のある会にするため、会議前はスタッフとの情報の共有を必ず行っている	必要あれば施設代表ではなく、他のスタッフの参加も行う
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		通院している病院の主治医と連絡を取ることがある	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		地域参加や交流、子どもたちにとって新たな刺激という点でも実施していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や電話連絡時など細かく話を聞けるように注意している	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○			
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の需要があれば適宜話ができるように意識している	回答できない内容や、知識・経験などが不足している場合は迅速に対応が行えるようスタッフのスキルアップを行う
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者同士の交流を求めている家庭については無理強いはせず、必要な情報の交換、相談などができる時間や場所の提供を行う
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		基本的に施設代表で行い、場合によっては他のスタッフから連絡を取ることもある	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNSにて情報の発信を行っている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		活動内容として、地域参加の活動が難しいことが多いが、実施の検討は必要
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		定期的な避難訓練の実施	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的な避難訓練の実施	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。